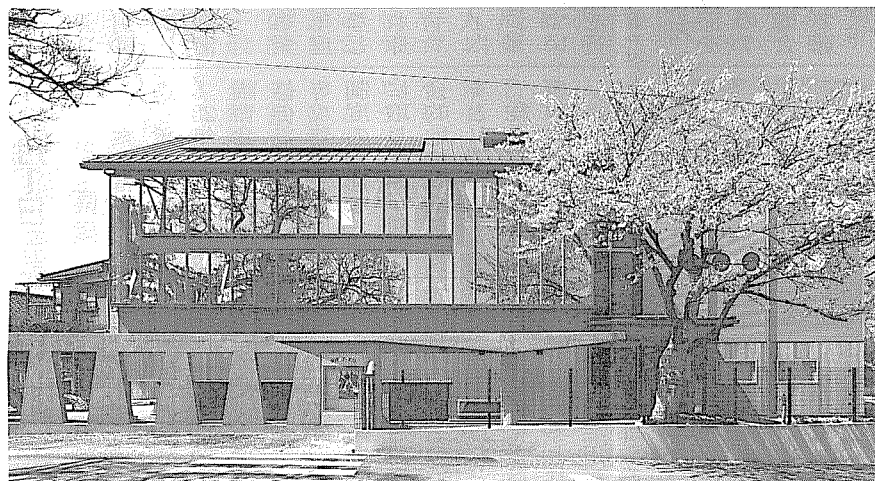


優秀賞

《一般建築》

聖徳保育園



■設計にあたって
 しょうらいずっとこの場所で永遠に子どもたちと過ごしたい想いと裏腹にこの地の建築制限は非常に厳しく、それを制限の諦観に終わらず積極的なアイデアで、それを感じない建築を目指した。
 うつりゆく四季の中で育まれた越後杉などの木質材を多用し、その特徴と環境を考慮した園舎は、大切な桜の木を保存し、東西の敷地境界に沿う形で付んでいる。

とにかく、限られた面積を有効利用するため2階は可動間仕切壁フレキシビリティに配慮した。遊戯室は昇降式ステージ、更に東側隣地の園庭を取り込むガラス壁とすることで、スペース以上の広がりが見え、屋上はデッキ敷の空中庭が開放感を与える。面積制限のためにできた1階テラスは、トップライトから建物を買通し光を落す工夫をした。また東面は象徴的な朱いカーテンウォールを持ち、これは旧園舎の特徴だった朱い屋根を継承している。
 くふうにより制限を感じない豊かな空間、小さな建築で得る大きな体感。負は負でない積極的な建築となった。

SU 株式会社 S.U 建築設計

代表取締役社長 角南邦彦

本社 新潟市中央区関新1-4-10 電話025(265)6666 FAX025(265)6655



地濃教授

平成22年度第19回新潟県建築士事務所協会建築作品賞の審査が、今年の3月8日、事務所協会役員室で行われた。最優秀賞1点、優秀賞1点、審査を行ったのは、西村伸也新潟大学副学長、地濃茂雄新潟工科大学教授、野水祥一新潟県土木部都市局建築住宅課長、川ノ口信一(社)新潟県建築士会会長、中村俊晴(社)新潟県建築士会副会長。



新潟県建築士事務所協会会長、松田道佳(社)新潟県建築士事務所協会技術委員長の委員6名。
 当初は、各賞1点ずつの予定で選定が進められたが、奨励賞は2作品の評価が僅差ということから、2点が選ばれた。審査員の評価は高く、今回応募された作品

も、新潟の風土・文化の特徴を巧みに取り入れ、工夫された質の高いものとなっており、新潟県の建築設計事務所活動の所属する設計者全員の高い技術力と熱意が、優れた成果として表れた形となった。
 なお最優秀賞に選ばれた住宅部門「バナキュラーな家」は、日事連建築作品展への推薦作品となる。以下、受賞4作品と講評を紹介する。

◎最優秀賞
「バナキュラーな家」(住宅部門)
 (株)高田建築設計事務所
 敷地に角度をずらした二つのキューブを組み合わせた住宅である。この角のずれが内部空間に極めて居心地のいい土間、広々とした居間、外部空間の多様な表情を創り出すことに成功している。

高田建築設計事務所「バナキュラーな家」が最優秀賞

23年度日事連建築作品展住宅部門に推薦

平成22年度第19回新潟県建築士事務所協会

建築作品賞

南の陽を受けて育つ植物で彩られた土間、暖炉の煙突に沿って上がる階段、居間と土間を見下ろすロフトには、それぞれの内部と外部とが融合されて家族の楽しい生活の場が見えるようである。

◎優秀賞
「聖徳保育園」(一般建築)
 (株)S.U.建築設計
 子どもに優しい越後杉をたくさん使った気持ちのいい保育園である。敷地の制限を逆に生かして、リニアに並ぶ4つの保育室全体が可動間仕切りでその大きさを換えられるように計画されている。

◎奨励賞
「第四銀行高田営業部」(都市部門)
 (株)植木組
 1級建築士事務所
 通りに向かって綺麗なプロポーションを持つファサードが魅力的な建築作品である。雁木のモチーフ、縦長のフィンを組み込んだ意欲的な建築作品となっている。

◎奨励賞
「秋山孝ポスター美術館長岡」(都市部門)
 (株)高田建築設計事務所
 1925年に建築された銀行のリノベーションである。時を経た外壁はその当時の建築技術の高さを感じさせ、まちづくりの環境としての活動に適した空間がつくられていることが評価された。

◎奨励賞
「秋山孝ポスター美術館長岡」(都市部門)
 (株)高田建築設計事務所
 1925年に建築された銀行のリノベーションである。時を経た外壁はその当時の建築技術の高さを感じさせ、まちづくりの環境としての活動に適した空間がつくられていることが評価された。

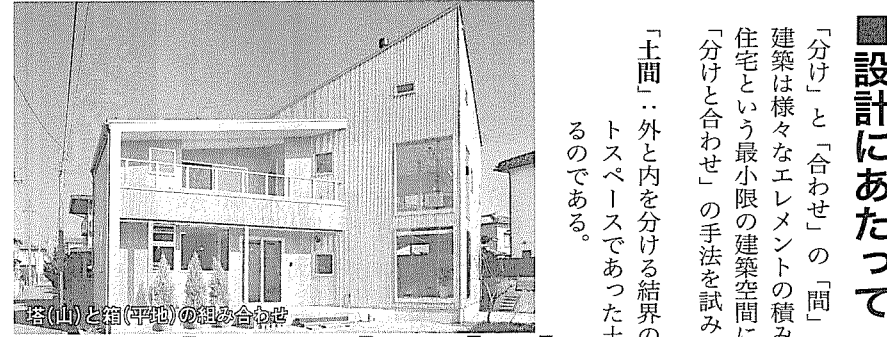
◎奨励賞
「秋山孝ポスター美術館長岡」(都市部門)
 (株)高田建築設計事務所
 1925年に建築された銀行のリノベーションである。時を経た外壁はその当時の建築技術の高さを感じさせ、まちづくりの環境としての活動に適した空間がつくられていることが評価された。

◎奨励賞
「秋山孝ポスター美術館長岡」(都市部門)
 (株)高田建築設計事務所
 1925年に建築された銀行のリノベーションである。時を経た外壁はその当時の建築技術の高さを感じさせ、まちづくりの環境としての活動に適した空間がつくられていることが評価された。

最優秀賞

《住宅部門》

バナキュラーな家



■設計にあたって
 「分け」と「合わせ」の「間」のすまい。
 建築は様々なエレメントの積み重ねから成り立っている。住宅という最小限の建築空間にバナキュラーな「外と内の相互貫入」「分けと合わせ」の手法を試みた。
 「土間」…外と内を分ける境界の役目をしてくれる。かつてサーバントスペースであった土間がマスタースペースとして機能するのである。
 「間取」…アミューズメントに手を伸ばし、外空間と内空間の融合を図る。
 「間知」…鈍角に振られた配置は心地よい「居方」と距離感「間を知る」。
 「居間」…自然と人工が交差するところ。すま居方も家族が出会う交差点。外と内をつなぎ「昔」と「これから」を結ぶ中間帯である。今「居間」。
 「時間」…土間に設けられた植栽は、太陽光と土がもつエネルギーを時の営みの中に成長させる。
 「空間」…デザインはシンプルに！空間は流れるように！

TAKADA

株式会社 高田建築設計事務所

代表取締役社長 高田清太郎

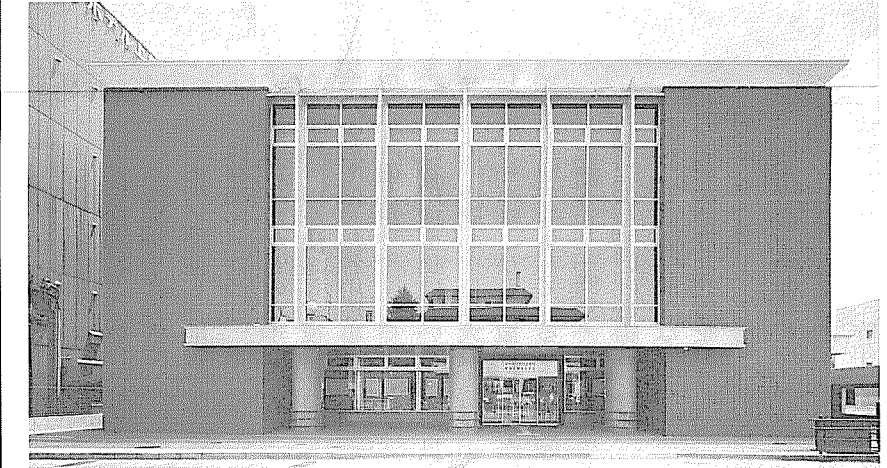
本社 長岡市撰田屋5-6-22 電話0258(36)1230 FAX0258(35)8185

http://www.takada-arc.com

奨励賞

《都市部門》

第四銀行高田営業部



■設計にあたって
 この建物は、第四銀行の「高田支店」と「高田駅前支店」を統合し、新たに「高田営業部」として建てられたものです。
 旧高田支店は昭和6年に建てられ、市民に愛されてきました。新店舗の建築にあたり、旧高田支店のファサードをモチーフに、カーテンウォールなどの現代的な要素を取り入れ、新しい中にも親しみを感じられる外観デザインとしました。
 また、屋外通路には雁木・町屋をイメージしたデザインを採用し、高田らしい地域性を表現しています。
 店舗内部はゆとりと落ち着ける空間構成で、ユニバーサルデザインを考慮するとともに、児童や周辺の方々による絵画などの作品展示スペース、各種相談・セミナーのためのスペースを設けるなど、地域の皆様に親しまれる建物となるように計画されています。
 この度の受賞は、企画・監修された第四銀行の御担当者様をはじめとする建設に携わられた全ての方々に対してのものであり、それを代表して当社が受賞させていただきますことにより感謝申し上げます。



株式会社 植木組1級建築士事務所

代表取締役社長 植木義明

本社 新潟県柏崎市新橋2-8 電話0257(23)2200

奨励賞

《都市部門》

秋山孝ポスター美術館 長岡



■設計にあたって
 大正15年から(計画時85歳)生きてきた建築は、当初銀行であった。その後、商店倉庫に。そして現在、美術館としてリノベーション(復活)・リスタート(再出発)した。
 当建設地は醸造業の町撰田屋と隣接している。長岡市は第二次大戦の戦火を受けたが、酒業への延焼を食い止めた価値ある建築でもある。中越地震にも耐えた。
 使命を終えた建築物は去るのみ！の風潮のなか、奇跡的に一粒の火種が起きた。
 有志が集まり歴史的建造物である調査と復興資金援助を得て、サポーター倶楽部を立ち上げた。
 地元出身のアーティスト兼教育者である秋山孝氏の美術館としてのリノベーション構想である。
 大切なものは「もの」だけでなく、活動する「こと」が重要！ハードとソフト両面からのプロジェクトであった。美術館(ハード)＋美術館活動(ソフト)運営。豊かな街には歴史があり、美がある。
 その歴史と美が、次の世代に継承されるステージ(居場所)としてのリノベーションであった。

TAKADA

株式会社 高田建築設計事務所

代表取締役社長 高田清太郎

本社 長岡市撰田屋5-6-22 電話0258(36)1230 FAX0258(35)8185

http://www.takada-arc.com

次なる半世紀への第一歩

協会の事業及び組織はどうあるべきか、見つめ直す時期



中村会長

新潟県建築士事務所協会

新潟県建築士事務所協会は5月18日、長岡市内で平成23年度通常総会を開催し、22年度事業報告、収支決算、23年度事業方針・事業計画案及び予算案など9議案を審議し、それぞれ原案通り議決した。
 第19回建築作品賞の表彰式も行われ、最優秀賞の高田建築設計事務所を



始め4作品に、賞状と記念の盾が贈られた。議事に先立ち中村会長は「昨年は創立50周年の年だった。業界の地位向上に大きく貢献したと思っている。今年は半世紀を超えて、次なる半世紀を迎える。協会の原点である、業界の社会的地位向上、技術レベル向上、作品の向上など、次世代へつなげることを考えるが、進んでいきたい」とあいさつした。
 今年度協会は、今後の「協会組織」と「将来展望」の策定、各委員会のあり方の検討、公益団体新制度への移行の検討などを進める。また各委員会活動も活発に行っていくとしている。